

# MOVING TOWARD TEACHING MASTERY

(指導力を究めるには)

リサ・ダンカン

教室の中であれ、コート上であれ、生徒に素晴らしい学習体験を与えるためには、いくつかの基本をおさえておく必要があります。皆さんが指導力を究める上で必要な4つのポイントについてお話しします。

## 1. 練習での存在感

今や、携帯電話や音楽プレーヤーや iPod Touch等の機器が生活に蔓延している時代ですが、テニスプロは指導中は目の前の練習に存在感を示すことが基本です。レッスン中に、過去のレッスンをどうしたらもう少し良くできただろうとか、今日はあと幾つレッスンがあったらどうか等と考えることがよくあります。終わったことやこれからのことを考えている時は、顧客に対して指導者としても人間としても接していないこととなります。

言葉全てに感情を込めて、お互いの時間を共有しようとする人に出会ったことはありませんか。時間が止まったように感じられ、我々の心の中にある雑事や心配事などどこかに消えてしまいます。人に教えることとは、生徒との一瞬を共有することです。優れた指導とは、指導者と生徒がどう繋がるかであり、その内容や内容の伝え方ではありません。マヤ・アンジェロウ(詩人)([http://en.wikipedia.org/wiki/Maya\\_Angelou](http://en.wikipedia.org/wiki/Maya_Angelou))の言葉に「人はあなたが喋ったことは忘れてしまいます。人はあなたがしたことは忘れてしまいます。しかし、人はあなたが与えてくれた気持は忘れません。」という言葉があります。我々と学習者の関係がまさにそれで、彼らの人生にどれだけの関心を寄せることができるかによって絆が強まります。テニスは、生徒と現在進行中の意味のある関係を築く橋渡しをしているに過ぎません。

「どこであれ、そこに全てのあなたがいるように」とは、練習での存在感について表している言葉です。親友であり才能ある1年生の担任教師とこの言葉について話し合っていたとき、彼女は笑って「そうね。今ここにいることね!」と言いました。次にコートに立ったとき、自分がそこにいるか確認してみましょう。

## 2. 目的のはっきりとした計画

次に大切なポイントは、レッスン毎に目的をはっきりとさせた計画を立てることです。私が新任の教師の指導をするときには、次のようなイメージをさせます。

とても仲の良い友達を夕食に招待したとしましょう。友達には気持ちよく過ごして貰いたいので、気持ちを込めた格別に美味しい料理でもてなそうと思います。いろいろなレシピを調べ、料理番組で研究し、新鮮な食材を扱っているマーケットまで出掛けて最高の食材を調達します。そして、細心の注意を込めて食事の準備をして友達を迎えるようにします。

私が授業や、テニスのレッスンや、指導者トレーニングのレッスンの準備をするときは、この様なイメージで行います。生徒や参加者に、ポジティブで楽しく有意義な経験をして貰うチャンスは一度しかありません。私がいつもこの様にできているかというと、必ずしもそうではありませんが、経験と知識を活かしてレッスンは改良されていると信じています。

目的のはっきりとした計画を **ACT**と表現しましょう。

**A -Attend:** ワークショップや授業やプロフェッショナル・デベロップメント・ウィークエンドなどの勉強の機会に参加しましょう。出席している他のティーチングプロや、クラブのオーナーや、上級のプレーヤー達

との意見交換やネットワーク作りから多くのことが学べます。PTRの国際テニスシンポジウムの価値はここににあります。

**C -Consume:** 最新の情報を入手すること。今日では、書籍、DVD、専門誌やウェブサイトなどから、指導法やビデオ分析やさまざまなドリルなど非常に多くの情報を得やすくなっています。これらのサイトをブックマークしたり、ダウンロードしてプリントアウトしてテーマ毎に分類してスクラップブックに整理したり、インデックスカードにドリルと説明を書いてファイルするのも良いでしょう。

**T -Try:** 毎週何か新しいことに勇気を持ってトライしましょう。新しいトピックであったり新しい指導手順を持つことで、新鮮な気持ちで指導ができます。何かを学ぶことのリスクやワクワク感が指導をエキサイティングなものにします。

### 3.指導と実戦の区別

指導の殆どはいわば万人向けにできています。脳科学の文献によれば、人々の学習の仕方は様々であり、また習得の速度もまちまちです。あるクラスの生徒の学習レベルにバラツキがあった場合、誰にも落ち込ませたり不満足感を与えたりしないようにするためにはどうしたらよいでしょう。

まず、2～3人の生徒が上手く打てない問題を抱えているとした場合、ボールを打つときはボールの真後ろに立つという、単純なボールの見方を教えます。それから、ボールを捉えるエリアがより制限されるLOBSTER TRAP(2本のラケットでボールを挟む)というゲームを通じて、打点の距離の感覚をつかませます。4～5分間こういう練習で彼らに理解をさせつつ、他の生徒達にはもう少し進んだ練習をさせます。

次の段階は、生徒に考えさせて積極的に関わらせます。自制が利かなくなったり、関係ないことをし始めるのは、行動に問題があるのではなく、飽きてくるからです。課題が簡単すぎたり、遙かに難しすぎたり、個人の挑戦を受け入れなかったり、目標の設定やスコアリングの方法に何かが足りないことが原因です。

指導と実戦の区別をつける最後のやり方は、次のように学習環境に変化を持たせることです。

#### コートサイズ：

技術は戦術等を最初に練習するときは36フィートのコートを使い、上達するにつれてコートサイズを広げて行きます。

#### ボール：

上述のコートの段階にあわせて、まず、赤いスポンジか低圧のボール、次に、それらより少し弾むオレンジのボール、そして、正規の黄色いボールというようにボールが開発されています。

#### バウンドの数：

ボールはワンバウンドだけで打たせずに、2バウンドやジャグリングさせて打つようなゲームを取り入れて、ボールの視認能力やフットワークのスキルを高めるようにします。

#### ラケットの長さ：

ラケットや棒の長さが短いほど、打てる確率が高まることが分かっています。年少の子にとって、長すぎるラケットや重すぎるラケットは学習効果の妨げになります。もしそういった用具を使う場合は、スローとの部分を持たせて長さを短くして練習効率を上げ、徐々に長く持たせるようにします。

#### 目標：

上手くできる子はネット越しに7メートルぐらい離れたターゲットを狙って打てるでしょうが、上手くできない子たちは、ネット越しに3メートルぐらい離れた大きめのターゲットを狙って打たせるといった調整をします。

#### 4.質問をしながらの指導：

レッスンの時間的な制約から、学習効果を確実にするための質問をしなかったり、したとしてもイエスノーだけで答えられる閉鎖型の質問しかしなかったりすることがよくあります。いろいろなタイプの質問をされると、いろいろな考え方をしなければならぬので、一言や二言で答えられないような、あるいは、いくつかの答えが考えられるような開放型の質問をすることが重要です。開放型の質問は、生徒にいろいろと考えさせ、創造力や批判力を高めます。そうすることで、学習に十分に参画させることができるのです。

教育心理学者のベンジャミン・ブルームは、1956年に「学習目的の分類学」を発表しました。(http://www.learningandteaching.info/learning/bloomtax.htm・http://en.wikipedia.org/wiki/Bloom's\_Taxonomy) 彼がまとめた指導活動と質問の分類のモデルは、学習効果を最大に引き出す方法を理解する上で、未だに役に立ち続けています。ブルームの分類レベルは、事実を単純に思い出したり認識するというレベルから、より複合的で高度な思考順序を求めるものへと移り、最終的に評価の段階へと導いて行きます。彼のモデルは、様々な学習環境に合わせていろいろな修正が加えられており、テニスに関連づけた形で表現してみました。

##### 知 識

数える、定義する、描写する、見つける、区別する、見出し、リスト、組み合わせ、名前、引用、思い出す、列挙、繋がり、伝達  
“深くボールを打つことが効果的な戦術であるのは何故か？”

##### 理 解

まとめる、表現する、議論する、説明する、一般化する、区別する、例証する、解釈する、言い換える、予測する、報告する、言い直す、見直す、要約する、伝える  
“ボールの軌道を決定づけるのはラケットのどこの部分か？”

##### 適 用

適用する、変える、選ぶ、計算する、脚色する、準備する、生み出す、演技する、選ぶ、見せる、移す、使う  
“36フィートのコートで学んだ戦術を、60フィートのコートに適用しなさい。”

##### 分 析

分析する、特徴付ける、分類する、比較する、対比する、討議する、推定する、差別する、細別する、区別する、検証する、関連づける、分離する  
“片手打ちと両手打ちのバックハンドの4つの相違点を比較しなさい。”

##### 統 合

組み立てる、構築する、創造する、設計する、開発する、集約する、発明する、作る、組織する、実行する、計画する、製造する、提案する  
“セカンドサーブが弱い相手と対戦するときの戦術を考えなさい。”

##### 評 価

評価する、主張する、査定する、選択する、終わる、批評家、決心する、評価する、判断する、正当化する、予測する、優先順位をつける、証明する、位置づける、見積もる、選別する  
“相手のショットに対する反応の準備としてベストな時は何時か？”

最も有能な指導者は、自分がすることを改善する意欲がある人たちです。常に目標を高く掲げ、教えるということに卓越すべく、目標の再編成を繰り返します。楽しませ進歩させ挑戦させ他と深く関わらせながら、生徒に対して最良の経験を与えることを考えます。テニスの指導者が道を究めるための進歩の助けとなる4つの方策は、練習での存在感、レッスンやクリニックの目的を明確にした計画、指導と実践の区別、質の高い、順序を考えさせる質問を用いての指導ををすることです。

成長したいと思っている人は、この記事を読みながら自己評価ができたでしょう。確信を抱いた人もいるでしょう。また、思ったように進んでいないことに気づいて少し落胆した人もいるでしょう。プロとしての我々を考えると、私は次の言葉を思い出します。「神よ、私は自分がありたい姿ではありません。神よ、私は自分になりたいものではありません。でも、あなたのお陰で今までの自分とは違います。」

大切なことは、あなたが指導力を極めようとして前進をしているかどうかなのです。

【筆者略歴】 Lisa Duncan: “Teaching Concepts”の創設者であり代表者。“Teaching Tennis”, “Growing a Healthy You (健康なあなたを創る)”という5冊組みのシリーズや、“Strategies to Inspired Learning (素晴らしい学習をするために)”を著す。教育コンサルタントとして様々なところを訪れており、テニスの殿堂から「教育功労賞」を授与される。PTRからは、最優秀新人賞、USTA地域サービス功労賞、そして、ペンシルバニア州最優秀メンバーを授与される。また、Middle States Presidential Service Awardを受賞し、USTAのレクリエーションコーチのマスタートレーナーに任命されている。多くのテニス関連会議やシンポジウムで講演を行い、School Tennis Programの集会と教師のトレーニングでは、一万人を超える人たちに指導をしてきている。

【翻訳・監修】 鈴木眞一： アド・イン桜テニスクール(柏市)代表 / PTRマスター プロフェッショナル (2008) / インターナショナル・マスター & クリニック / PTR プロフェッショナル・オブ・ザ・イヤー (2001) / JPTR プロ・オブ・ザ・イヤー (1986)